

絵で見てわかるハンセン病問題パネル

ハンセン病問題は、国が引き起こした人権問題です。

ハンセン病にかかった人は、無理やり療養所に入れられました。病気が治っても出ることとはできず、家族やふるさと、未来まで奪われました。さらに、病気になった人だけでなく、その家族も差別されました。

ハンセン病による差別は、日本だけでなく世界中で起こっています。しかし、日本では90年近くも、病気の人を療養所に閉じこめる政策が続ききました。さらに、子どもを産むことすら許されませんでした。これは日本だけのことです。

ハンセン病問題は過去の話ではありません。今も、差別に苦しんでいる人がいます。

また、ハンセン病問題を知ることは、みなさんの身のまわりの「いじめ」や、性別、国籍、障がい、見た目などを理由にした差別について考えるヒントにもなります。

今回の展示では、ハンセン病問題を知るための15のポイントを、わかりやすく説明しています。ハンセン病問題について学び、差別をなくすためにできることを、いっしょに考えていきましょう。

国立ハンセン病資料館



ハンセン病資料館各種サービス

国立ハンセン病資料館では館内の常設・企画展示以外にもさまざまな無料サービスを行っています。ハンセン病問題の理解にぜひご利用ください。

- ◆出張講座 ◆団体見学 ◆パネル、DVD貸出
- ◆図書室 ◆ハンセン病資料館YouTubeチャンネル

詳しくは公式サイトをご覧ください。

国立ハンセン病資料館

〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13 Tel.042-396-2909

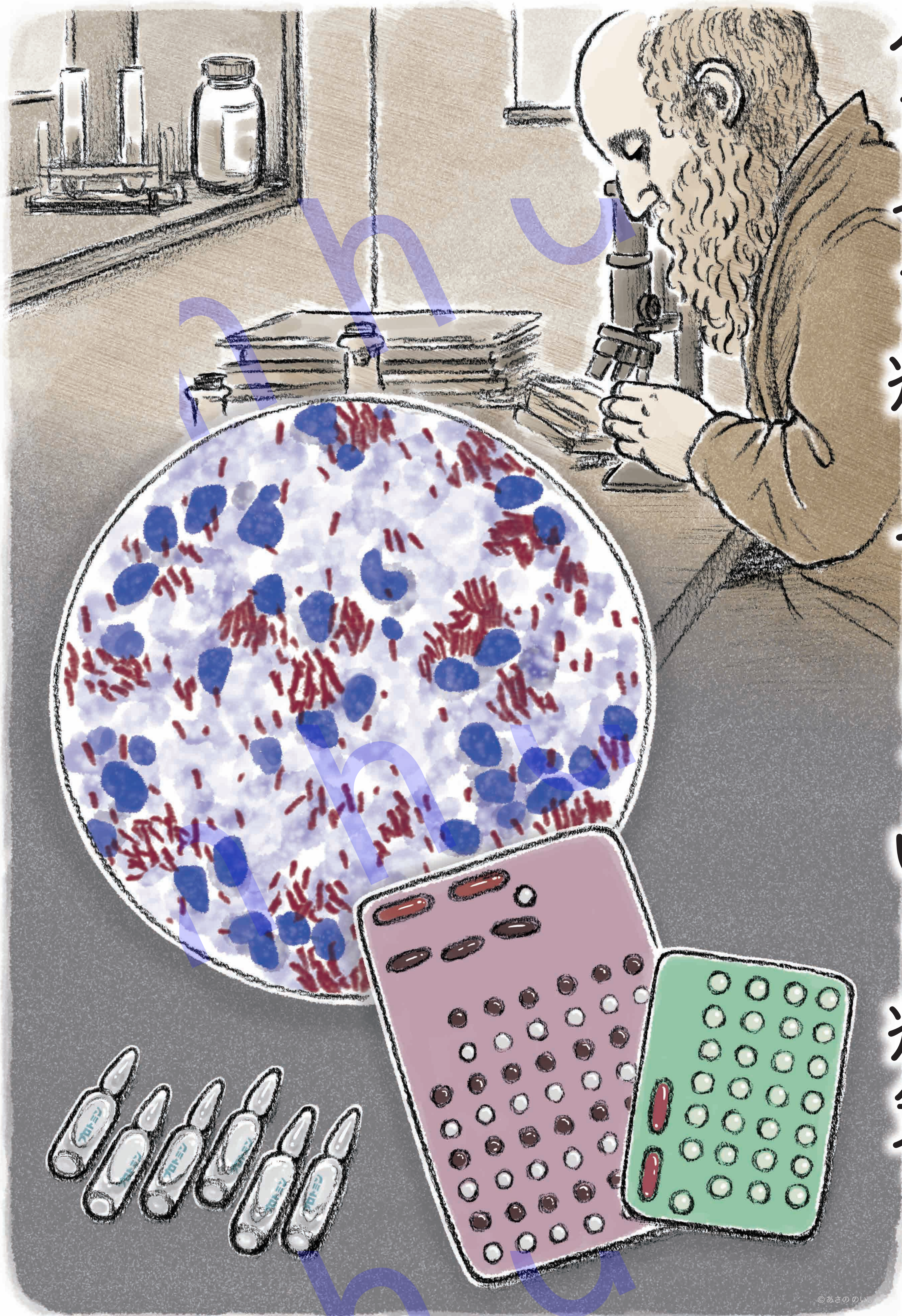
■開館時間：9時30分から16時30分 ■入館無料

■休館日：月曜（月曜が休日の場合は開館）および「国民の祝日」の翌日にあたる平日、年末年始

国立ハンセン病資料館
公式サイト



ハンセン病^{びょう}ってどうい^{びょう}う病^き気^き？



©あさののい

「らい菌^{きん}」という細菌^{さいきん}による、慢性^{まんせい}の感染症^{かんせんしょう}（ゆっくり症状^{しょうじょう}が進む、うつる病^{びょう}気^き）です。今^{いま}では、薬^{くすり}によって完全^{かんぜん}に治^{なお}ります。むかしは治^{なお}す方法^{ほうほう}がなく、顔^{かお}や手足^{てあし}など目^めのつくところに症状^{しょうじょう}があらわれ、見た^み目^めがかわってしま^さうため、差別^{さべつ}を受^うけました。

隔離^{かくり}はいつ始^はまったの？



©あさののい

1907(明治^{めいじ}40)年、国^{くに}は、療養所^{りょうようじょ}をつくって患者^{かんじゃ}を閉じこめてしまう最初^{さいしょ}の法律^{ほうりつ}をつくります。その後^ご1931(昭和^{しょうわ}6)年、1953(昭和^{しょうわ}28)年の法律^{ほうりつ}にも、隔離政策^{かくりせいさく}はひきつがれ、1996(平成^{へいせい}8)年に廃止^{はいし}されるまで89年間^{ねんかん}もつづけられました。

こどもはいたの？



©あさの のい

療養所^{りょうようじょ}に、こどもの入所者^{にゅうしよしゃ}はたくさんいました。療養所^{りょうようじょ}の外の学校^{がっこう}には通わせてもらえず、園内^{えんない}の学校^{がっこう}で勉強^{べんきょう}するしかありませんでした。療養所^{りょうようじょ}に入所^{にゅうしよ}したあとは、お父さん^{とう}お母さん^{かあ}などの家族^{かぞく}に会い^あに行くことができません^いでした。そのため、病気^{びょうき}が治^{なお}って大人^{おとな}になっても、お父さん^{とう}お母さん^{かあ}と家族^{かぞく}としての関係^{かんけい}を回復^{かいふく}できないままのひと^{ひと}がほとんどでした。

なぜ日本だけが隔離をつづけたの？



日本では、憲法で人権がみとめられるようになってからも、国による隔離政策がつづけられました。憲法の第22条「公共の福祉に反しない限り…自由を有する。」のなかの「公共の福祉」（社会全体の幸福）を理由に、ハンセン病患者が療養所から出てこられないようにされてもしかたがない、社会全体の幸福のためにはハンセン病患者の人権が守られなくてもかまわないと、国が考えて政策を決めたことがいちばんの問題でした。

だれが悪いの？

わる



戦後、正しい医学的知識を持っているはずのハンセン病の専門医が、国会に呼ばれて「隔離政策を続けるべきだ」という発言をし、政府も国会もそれに従います。また、ハンセン病患者が罪を犯したとしても、ふつうの裁判所で裁判を受けられないという差別的なあつかいをするを、最高裁判所が認めていました。つまり、医学者、政府（行政）、国会（立法）、裁判所（司法）をはじめ、社会にいる私たちをふくむありとあらゆる立場の人が、差別をしました。

なぜ日本^{にほん}だけが

こどもができなくする手術^{しゅじゅつ}をしたの？



©あさの のい

海外^{かいがい}では、宗教^{しゅうきやうじやう}上の理由^{りゆう}（キリスト教^{きりすとうきやう}では許^{ゆる}されない）により、ハンセン病^{はんせんびやう}になった人^{ひと}でもこどもを産^うみ育てることはみとめられていました。しかし日本^{にほん}では、「ハンセン病^{はんせんびやう}になった人^{ひと}はこどもができないうにされてもかまわない」と見^みなされ、こどもができないうにする手術^{しゅじゅつ}をされました。

なぜ納骨堂があるの？

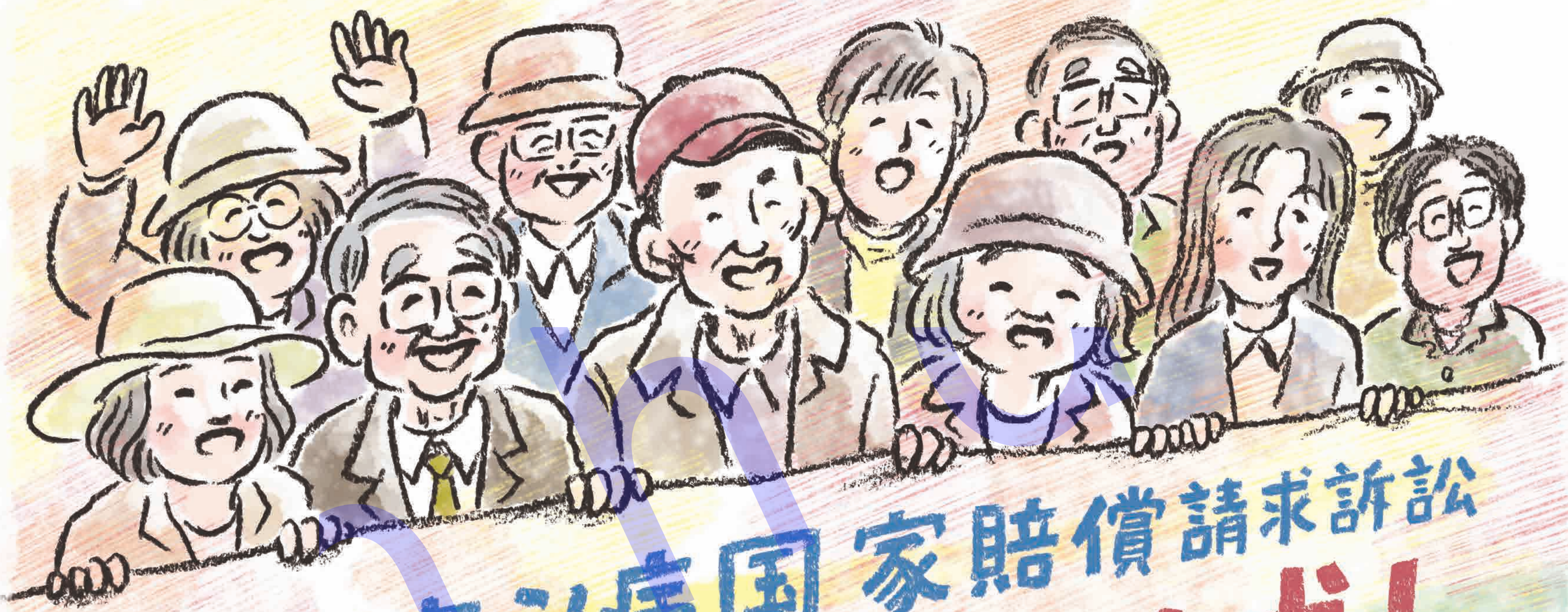


©あさのい

ハンセン病患者が身内みうちにしることを知られると家族が差別を受けるため、家族と縁を切って暮らす入所者にゅうしょしゃも多いです。また、私たち社会の目を気にして、遺骨の引き取りを断る家族も少なくありません。行き場のない遺骨は、療養所の中にある納骨堂におさめられています。亡くなくてもなお差別が続いているため、帰る場所がないのです。

国^{くに}をうったえた裁判^{さいばん}では

どんなことが争^{あらそ}われたの？



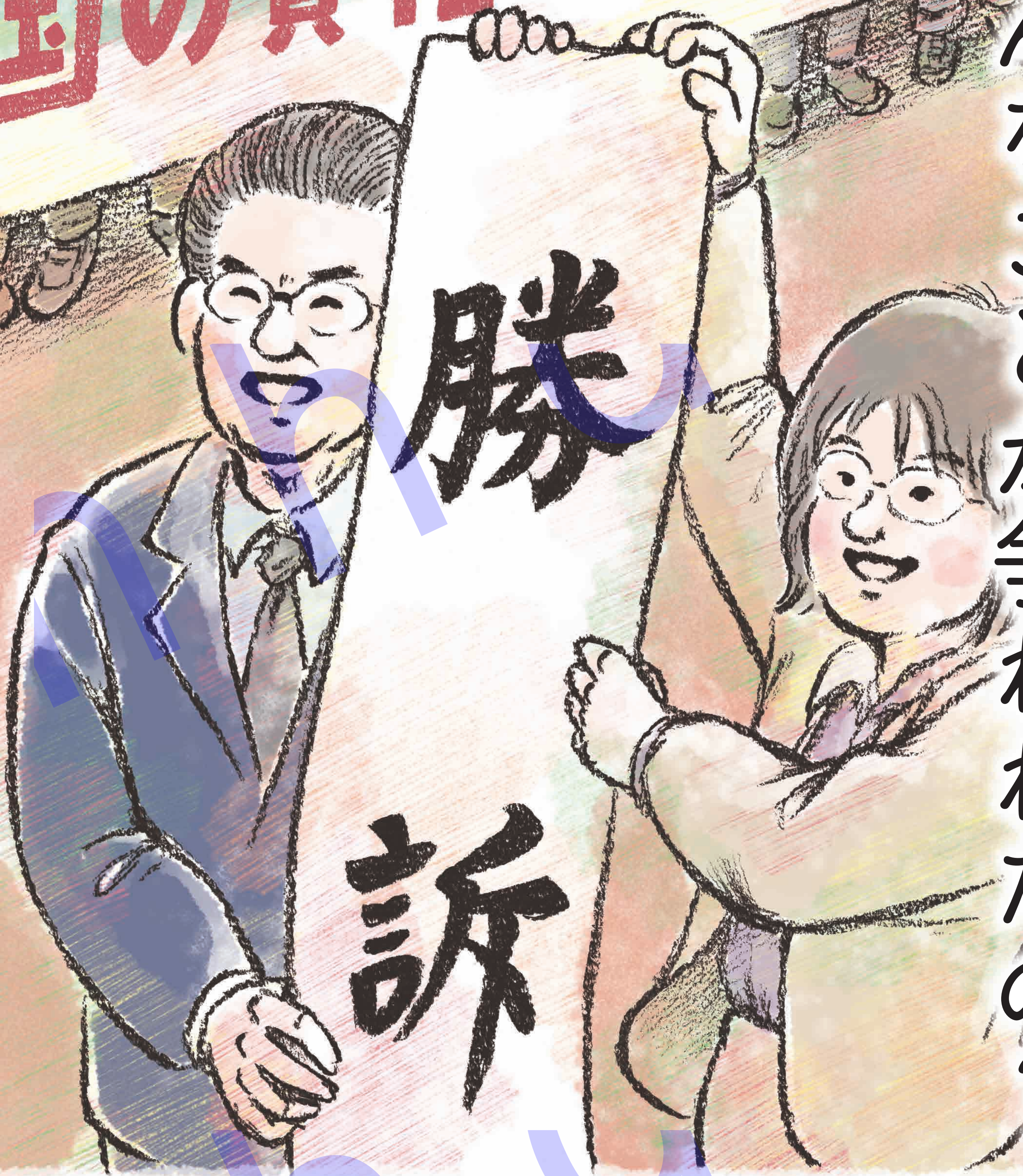
ハンセン病^{ハンセンびょう}国家賠償請求訴訟^{こくかばいしょうせいきうそん}

隔離^{かくり}けた

国の責任^{こくのかうしん}を追求し

勝

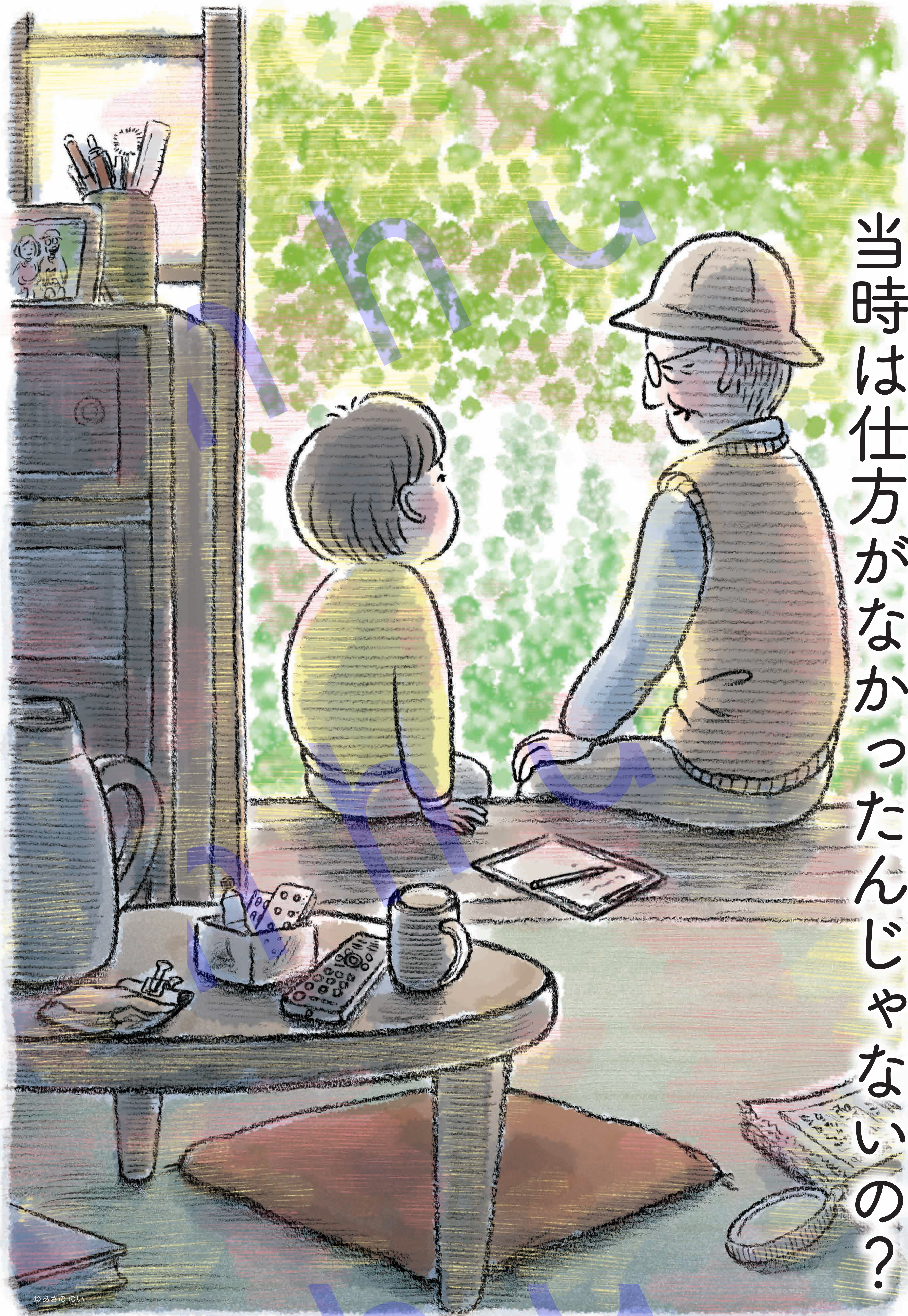
訴



隔離^{かくり}を定めたら予防法^{よぼうほう}がなくなっても、国^{くに}は自分^{じぶん}たちがおこなってきた隔離政策^{かくりせいさく}が人権侵害^{じんけんしんがい}であったとは認めようとしませんでした。それはおかしいと一部の入所者^{いちぶにゅうしや}が立ち上がり、国^{くに}をうったえる裁判^{さいばん}を起こしました。判決^{はんけつ}では、国^{くに}による隔離政策^{かくりせいさく}は、人権侵害^{じんけんしんがい}であったことなどが認められました。国^{くに}は謝り、お金^{かね}（補償金^{ほしょうきん}）を支払^{しはら}う結果^{けっか}となりました。

今^{いま}だったら、まちがいだとわかるけど

当時^{とうじ}は仕方^{しかた}がなかったんじゃないの？



1950年代^{ねんだい}にハンセン病^{びょう}について話し^{はな}合われた国際会議^あの場で、差別的な法律^{こくさい}はなくすようにくり返し決議^{かいぎ}がなされ、日本^{にほん}も勧告^{かんこく}を受けています。すでに世界的^{せかいてき}に見ても、日本の隔離政策^みが時代^{にほん}おくれであることははっきりしていました。国^{くに}は国際的な決議^{こくさいてき}や勧告^{かんこく}を無視^{むし}して隔離政策^{かくり}をつづけたにすぎず、「あの時^{とき}は仕方^{しかた}なかった」論^{ろん}は通用^{つうよう}しません。

なぜ家族が裁判を起こしたの？



ハンセン病患者・回復者の家族が差別を受けたのは、国が正しい知識を伝えず、対策をとらなかったからだ、家族は国をうったえる裁判を起こしました。原告（うったえた家族）は、差別を受けることを恐れて名前を明らかにせず、原告番号（名前のかわりに使う番号）で裁判に参加しました。判決では、家族が差別されたのは国の責任であることが認められました。国は家族に謝罪し、お金（補償金）を支払う結果となりました。

なぜ補償金^{ほしょうきん}をもらう家族^{かぞく}が少ない^{すく}の？



©あさのい

家族^{かぞく}にハンセン病患者^{びょうかんびや}がいた人^{ひと}は、そのことを周り^{まわ}の人^{ひと}に知られることをさけるため、補償金^{ほしょうきん}をもらっていません。補償金^{ほしょうきん}を受け取る資格^{うけとしかく}のある家族^{かぞく}は2万4,000人^{まんにん}いますが、実際^{じっさい}に受け取った人^{ひと}は38%程度^{ていど}に過ぎません。私たち^{わたし}一般社会^{いっぱんしゃかい}からの差別^{さべつ}を恐れているためです。

なぜ、らい予防法がなくなっても

まだ療養所に入所者がいるの？



©あさののい

国の政策によって、年をとるまで療養所に閉じ込められ、家族も持てなかった人たちは、社会に出て暮らす手段を失いました。こうした取り返しがつかない「人生被害」へのつぐないとして、療養所で最期まで暮らせる権利を入所者は勝ち取りました。国も、入所者が最後の一人になるまで療養所で生活できるようにすることを約束しています。

なぜ

一度社会復帰した人が

療養所に戻ってきてしまうの？



©あさののい

一度療養所を出て社会復帰した回復者が、再び療養所に戻ってきてしまうケースが増えています。
2001（平成13）年度以降20年間で、少なくとも240人が療養所にもどってきています（読売新聞2021年5月11日）。これは、私たちの差別が根づよく残っているため、病気であったことを明らかにして暮らすことができないからです。

だれがハンセン病資料館をつくったの？ なぜつくったの？



もともと、多磨全生園の入所者が中心となって、1993（平成5）年に高松宮記念ハンセン病資料館ができました。その後、裁判で国が負けたことで、2007（平成19）年に国立ハンセン病資料館となってからは、国のまちがった政策により被害を受けたハンセン病患者・回復者およびその家族の名誉を回復することを目的として運営されています。

私^{わたし}たちにできることは

どんなことがあるの？



©あさののい

まずは、ハンセン病問題とは何か（^{びょうもんだい}国^{くに}による^{かくり}隔離^{せいさく}政策^{びょうかんじゃ}によって、^{かいふくしゃ}ハンセン病患者^{かぞく}・回復者^{じゅうだい}およびその家族^{じんけんしんがい}に重大^しな人権侵害^{じんけん}がもたらされたこと）を知^しってもら^しうことが大切^{たいせつ}です。その次^{つぎ}に、私^{わたし}たちが、差別^{さべつ}を起^おこさないた^{たいせつ}めに、人権^{じんけん}を大切^{たいせつ}にする社会^{しゃかい}をつくるためにはどのような行^{こう}動^{どう}をしてい^いけばよ^よいか考^{かん}えてもら^らうことが大切^{たいせつ}です。
^{びょうき}病^{せいべつ}気^{こくせき}をは^{しょう}じめ、性^み別^め、国^{りゆう}籍^{さべつ}、障^いがい、見^{いま}た目^{はじ}などを理^と由^とにした差別^{さべつ}をしな^いことを、今^{いま}から始^{はじ}めてみま^しょう。
そして、周^{まわ}りの人^{ひと}がそ^とうい^とうことをして^して^しいたら、それ^とを止^とめるよう^とにしま^しょう。